



3.11 を忘れない

ドラマ・リーディング

空の村号

楠木空（小学5年生）は酪農家の長男。特に夢もない。原発事故後、変わっていく村と家族。

「どっかに世界征服をたくらむ悪の星の帝王ガガソボンバーがいてそれをやっつければ、「平和が戻ってくる」…と空は信じたかった。

第48回「斎田喬戯曲賞」受賞作品



美しい村で

劇作家 篠原久美子

それは美しい村でした。山に野生の藤の花の咲く季節。訪れた酪農家の庭にはたわわにさくらんぼが実り、夕暮れの海を眺めた山の頂では、足元にマーガレットが風に揺れていました。

けれども、農村であるその村の畑には雑草がはびこり、田んぼは干からび、牛舎には牛が一頭もいませんでした。新緑の眩しい季節に、蛙の声がない、鳥がいない、子どもがいない村でした。ご縁のあったドキュメンタリーの映画監督に連れて行っていただき、村を訪れ、村の人たちのお話を伺って帰る新幹線の中で、私はまるで体のどこかの機能が壊れてしまったかのように涙が止まらなくなりました。

都会の街を移動しながら、あの美しい村の苦悩と涙を作り出している明るさに、胸が締め付けられるようなやせなさを感じた、あの日の痛み。それを忘れることを拒否しようと思います。時がたてば自然は忘れることを促しますが、そうしたらまた思い出そうと思います。美しい山の、美しい村の、胸をかきむしられるような、痛みを。

2月6日(金)午後7時開演 (開場30分前・上演75分)

かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール (自由席)

(葛飾区立石6-33-1 京成青砥駅または京成立石駅下車徒歩7分)

大人3000円
小・中学生2000円
当日500円増し

主催・申し込み：NPO法人かつしか子ども劇場 Tel/fax 03-5670-9101

(未就学児はご遠慮ください)

後援：葛飾区教育委員会